

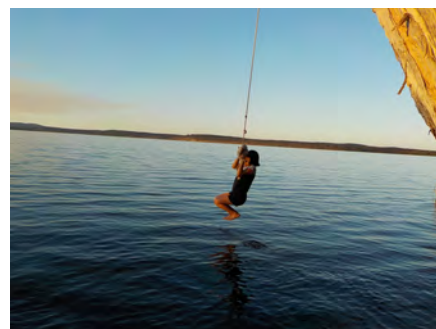
SAGAMI VOICE

相模女子大学小学部
学校紹介通信

校外学習特集

2023.3改訂

252-0383
相模原市南区文京 2-1-1
TEL.042-742-1444
www.sagami-wu.ac.jp/sho/



新たな自分に出会える宿泊体験

小学部では、4年生から宿泊を伴った校外学習が始まります。4年生では、社会科の学習をもとにした「三浦体験学校」、英語の学力を高めるEnglish Camp。5年生では水泳とスキーを体験する「臨海学校」と「スキー学校」。6年生では理科の学習をもとにした「富士山自然体験学校」そして小学部生活最後の校外学習「修学旅行」があります。

学習を中心に据えた校外学習では、様々な場面で人と関わり、できるだけ本物に出会うことが、子どもたちの興味関心を高め、自らが考えたいような学習としての「土台」になるのではないかと考えています。例えば、4年生の「三浦体験学校」では、三浦の農業や漁業に直接触れることで、机上の学習であったものが実感として感じられ、学習がより深まり、確実な知識として身についています。また、体験を中心に据えた校外学習では、お互いを支え合いながら取り組むことによって、あきらめずに最後までやり遂げようとする気持ちを育ててくれると考えています。

家庭を離れた宿泊を伴う集団生活では、自分で考えて行動すること、ルールを守ることや仲間と協力することの大切さなどを学びます。また、普段の家庭生活を振り返り、家族に支えられている自分を見つめることで、家族への感謝の気持ちを深めることにもつながっています。

小学部の宿泊体験では、子どもたちが様々な「本物に触れ」「本気になる」活動を通して、一人ひとりが自信をもって帰ってきているように感じています。仲間と一緒に過ごした数日間の中で、できるようになったことや、新たな自分、仲間の新たな一面に出会えることも宿泊体験の大きな意義の一つだと考えています。



- 4年生—三浦体験学校（1泊2日）
English Camp（2泊3日）
- 5年生—臨海学校（3泊4日）
スキー学校（3泊4日）
- 6年生—富士山自然体験学校（2泊3日）
修学旅行（2泊3日）



相模女子大学小学部

Sagami Women's University Elementary School



多くの先生と子どもたちが関わる機会

5年生の臨海学校、スキー学校は、特別なインストラクターを招くことなく、私たち教員が水泳も、スキーも指導に当たっています。ですから、その学年担任はもちろんのこと、他の多くの教員がそれぞれの宿泊行事に参加します。

水泳やスキーのような技術系の学習には、専門のインストラクターが当たることは、確かに、その技術そのものを高めることには、役立つでしょう。しかし、私たちは、子どもへの指導を通して、子どもの成長や達成感を共に喜ぶことが重要だと考えます。そして、担任を含む、多くの教員がそれぞれの学年の子どもたちと関わりながら、一人ひとりの子どもたちの素晴らしさを共有し理解を深めていくことが大切なのです。さらに、子どもたちにとっても、多くの先生方と触れあうことで、多くの先生方に見守られているという気持ちを持つことができるでしょう。

国際理解教育～オーストラリアホームステイ～

小学部では国際理解教育推進のため、平成26年度からオーストラリア、クィーンズランド州の公立学校Peregian Springs State Schoolより短期留学生を受け入れています。現在は姉妹校となり、毎年相互交流としてホームステイを行うようになりました。

夏休みにPeregian Springs State Schoolを訪れる小学部の子どもたち。オーストラリアの季節は真冬ですが過ごしやすい陽気です。オーストラリアの文化であるモーニングティータイムは午前10時半。車座になって床に座り、自由に飛び回る美しい鳥たちに囲まれながら、ホストファミリーが用意してくれた軽食をいただきます。温かなオーストラリアの方々と充実した時間を過ごす、宝物のような10日間です。

一方で、オーストラリアの子どもたちは、2学期に日本にやってきます。温暖なクィーンズランド州出身の子どもたちにとっては、晩秋の寒さですら驚きの様子。小学部の家庭に一週間ホームステイし、パディと登校してくると竹馬やけん玉に興味津々。その他にもサッカーや鬼ごっこを楽しみながら、交流を深めていきます。授業では、小学部「つなぐ手」のプログラムである茶道や書道を通して、日本文化の静けさ、奥ゆかしさをともに学びます。オーストラリアの子どもたちの来日は、小学部の子どもたちに改めて自分たちの国「日本」を見つめ直す貴重な機会をもたらします。これは、国際理解教育の貴重な学びと言えます。

姉妹校との交流を始めて以来、子どもたちの英語学習に対するモチベーションは格段に上がりました。国際化の波はますます高まるばかり。小学部では今後も姉妹校との交流を豊かに育み、国際理解教育を進めていきたいと考えています。



SAGAMI VOICE

校外学習特集



副校長
VOICE



インドネシアのともだち

シナルマスアカデミーの児童が短期交流で小学部へやってきました。こどもたちは、学習した英語や身振り手振りで、打ち解けあいます。



信頼関係からうまれる挑戦と達成～ 5年生の臨海学校とスキー学校

5年生の宿泊行事は、7月に西伊豆・土肥で行う臨海学校、1月に長野・戸隠で行うスキー学校があります。どちらも3泊4日で、じっくりと心身を鍛える宿泊行事です。

臨海学校では、「海で泳ぐ経験」をします。安全な土肥海水浴場内ですが、足が届く水深から段階的に練習を進めて、3日目や4日目には、足が届かない水深を泳ぐ「遠泳」に挑戦します。難易度や距離は、泳力に合わせますが、足が届かないところで泳ぐのは、精神的にも大きな挑戦となります。その安全確保のために現地の監視員との連携や準備段階からのマネジメントを大切にするとともに、多くの教師が指導にあたることで、万全の体制で実施しています。

さらに、遠泳に挑戦するためには、次の3つのことを大切に考えています。

- ① 5年生までの水泳指導で、水が好きになるように、段階的に練習すること。
- ② 5年生の水泳は、技術だけでなく、水辺の安全に関する学習も行うこと。
- ③ 臨海学校では、多くの教師が水泳指導にあたり、各チームの教師と5年生との間に、強い信頼関係を築くこと。

特に児童と教師との信頼関係なくして、「深いところ」に挑戦することはできません。「先生は、いつでも自分を見ていてくれる」という信頼がなければ挑めません。臨海学校は昼間の練習だけでなく、夜のミーティングでも理論指導をし、昼夜を問わない指導がなされます。

遠泳のゴールで、子ども達の喜び方は様々ですが、互いに健闘をたたえ合う姿を見る度に、この行事の価値の高さを確信します。

スキー学校では、雄大な戸隠高原のもとで、思う存分スキーを楽しみます。水泳とは違って、スキー経験は子ども達それぞれです。初めての子もいれば、毎年何回も滑っている子もいますので、それぞれのレベルに合わせて講習が行われます。

スキー指導については、スキーの指導者研修等に参加している教師が中心となり、多くの小学部教員がスキー指導にあたります。

スキー学校は、スキー技術習得だけを目的としているわけではありません。「4月から、小学部の最高学年となる」そんな5年生と小学部教師が、スキーを通して関わり合い、共に挑戦し、達成感を味わうなかで、よりよい小学部にしていこうという気持ちを合わせる行事なのです。

5年生による遠泳とスキー。安全対策を万全にし、これからも永く続けていきたいと考えています。それだけ高い価値のある行事です。



富士山自然体験学校

6年生では、夏の校外学習として2泊3日で「富士山自然体験学校」を実施しています。富士山周辺を取り囲む豊かな自然と火山の地形を見学することで、より学びを深めることがこの体験学校のねらいです。

この校外学習に向け、理科の授業では、モデル実験などを通して火山としての富士山の構造を調べていきます。例えば、富士山の形がきれいな円錐形をしているのはなぜかと子どもたちに問いかけます。様々な予想をたてることはできますが、なぜ富士山の形がきれいな円錐形なのか、その決定的な説明をすることができません。多くの要因がありますが、実際にちがうのはマグマの性質であり、その粘性によってつくり上げられる火山の形態が変わるのです。

子どもたちには、「マグマの粘りけがちがうんだよ」ということを伝え、実際に紙粘土で山をつくり、マグマのかわりに粘性の異なるスライムを注射器で噴火させ、その形態を比べます。スライムが固いと丸い形の山ができ、粘性の低いスライムで行うと高い山はできないということがわかります。さらに富士山の場合は何度も噴火を繰り返してできた「成層火山」であることも伝えます。理科室という小さな空間でも、富士山の噴火を再現することができ、複雑に見える自然現象も単純に捉えることができるのです。

このような事前学習を経て、1日目は湧水地である忍野八海と河口湖フィールドセンターで溶岩樹型の見学を行います。溶岩樹型とは富士山噴火の際、溶岩が樹木の幹を取り込み固まってできた空洞のことです。子どもたちはその穴の中に入り、10m以上あるトンネルをくぐりながら「中は涼しい。」「天井がポコポコしてるよ!」「昔こんなに長い木があったの?」と、驚きの声をあげます。富士山の噴火がいかに巨大なものであったかを実感できる場面です。他にも二日間で、青木ヶ原樹海のナイトウォーク、エコトレッキング、コウモリ穴の見学と火山の上にできた自然や生態系について五感をフルに働かせながら学びます。

富士山自然体験学校は、なぜ「富士山は日本一の山」といわれるのかを理解することができる学びの多い校外学習となっています。



English Camp

羽鳥湖高原のBritish Hillsは、海拔1000メートルの森の中にあります。冬は一面の銀世界。4年生のEnglish Campは1月、雪深い森の中で行われます。敷地に一歩足を踏み入れるとそこには英国の街並みが広がります。約7万坪の広大な敷地は、マナーハウス（英国荘園領主の館）を中心とした中世の英国そのもの。映画「ハリーポッター」の世界が目の前にあるのです。「Welcome to British Hills!」スタッフの方々が笑顔で迎えてくださいます。そう、ここの公用語は英語。子どもたちはあらゆる場面を3日間、英語のみで行う環境に置かれます。

「Hi! Can I check in, please.」「Yes. Your name please.」勇気を出してReceptionのスタッフの方に話しかけます。Registration Cardへの記入も、もちろん英語。名前や住所、年齢や日付などを英語で記入していきます。練習の成果が発揮される瞬間です。チェックインの会話もカードの書き方も、英語の授業で一生涯懸命練習してきたのです。学校で学んできたことを実際に使う「本物」の機会が、ここにあるのです。必要なのは、それを使う子どもたちの勇気です。

「I'd like to change some money, please!」British Hillsには、ブリティッシュヒルズポンドというオリジナル通貨があります。日本円を両替し、実際にポンドを使って英語で買い物をするためのシステムです。English Campでは、お土産の購入をポンドで義務づけ、両替からすべて子どもたち自身が行うことになっています。「英語で買えたよ!」「英語が通じたよ!」教室での何十回の練習も、実際の経験にはかないません。

もちろん、積み重ねた学習だけで乗り切れるわけではありません。「このお土産、間違えて買っちゃった。取り替えてもらえる?」「マナーハウスにはどうやって行くの。」「Just ask the staff!」「You can do it!」困ったことが起きたときも、英語で対処しなければなりません。ただし、子どもたちは一人ではありません。仲間がいます。「何て聞けばいいのだけ?」「Where isじゃない?」学校で行うCampでの強みは、ともに乗り越えようとする仲間がそばにいること。一人ではできないことも、仲間と一緒に一歩も二歩も、踏み出すことができるのも事実です。

英語学習を通して身につけさせたい力は英語力だけではありません。ことばの壁を乗り越えようとする姿勢や勇気。このEnglish Campを通して培いたいのは、コミュニケーションのツールとして英語を使おうという姿勢や勇気なのです。そして英語を使ってコミュニケーションをとる自信です。英語を使ってコミュニケーションし、生活する。仲間とともに。小学部の国際理解教育の原点がここにあります。 ※2021年度、2022年度は会場を変えて実施